
IS ～ ある平凡な女生徒の話 ～

和井

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS ある平凡な女生徒の話

【Nコード】

N3493BA

【作者名】

和井

【あらすじ】

原作でもアニメでも限りなく影の薄かった1年3組に入学した女オリ主（転生者にあらず）から見た騒動の数々を書いて行こうと思います。

作者は原作は臨海学校のあたりまでしか読んでいません。アンチオリキャラ、原作ブレイクになるかと思われます。初心者が書く文なので、広い心で読んでくれると嬉しいです。

入学式（前書き）

入学式

その日私は、これまでの15年の人生において最も緊張する日を迎えていた。

たかが高校の入学式と言うなかれ。

私は何の神様の悪戯か天下のIS学園への入学を果たしたのである。

合格通知が届いた日の騒動はそれはもう凄いものだった。学校の皆が騒ぐのは勿論、地元のテレビや新聞社からもインタビューが来たほどだ。(うちが如何に田舎かが良く分かるエピソードである)まさか「人生の記念に受験したら受かりました」なんて言えるわけがない。しどろもどろに返事をしているうちに、IS学園入学を目指して日々努力を続けた少女のサクセスストーリーが紙面を飾っていた。我ながら、これ誰?と思ってしまった。

親元を離れるどころか、県外に出たのは修学旅行の時と受験の時だけという私が全寮制のIS学園に入学するにあたっては、両親はそれはもう心配して、入寮の手続きには会社を休んで同伴したぐら이다。高校生になるのに親同伴は恥ずかしかったけど、ちょっと安心したのは私だけの秘密だ。それに、私以外にも保護者同伴でやってきていた子は結構いたので、もし一人で来ていたら尻込みして逃げ帰っていたかもしれない。

入学式には保護者は参列できないので、両親は数日近隣のホテルに滞在しながら日常品を揃えてくれると、くれぐれも日本の恥にな

らない様に、と大仰な言葉を残して帰っていった。その頃には私も寮で仲良く喋れる相手が数人出来ていたので、ホームシックも心配していた程ひどくなくてすんだ。なにしろ新入生の半数近くは留学生なのだ。母国を離れている彼女達の前で弱音を吐いている場合じゃないし。

それにしても凄い年に入学できたな、と思う。世界初の男性のIS適正者と同年なのだ。テレビで大騒ぎになったところは受験シーズンは終わりにかけていたし、まさか彼が同学年になるとは思ってなかった。色々研究所とかで検査されるのになって思ってたけど、日本政府としては彼をとにかく早く安全な環境に置きたかったらしい。その点、超法規的存在であるIS学園がうってつけだったということなのだろう。

ただ、事前に発表されていたクラス分けでは彼は1組、私は3組。2クラス合同の実技演習でも一緒になれないのが残念だ。でも、寮で仲良くなった子に1組の子もいたので、彼女から色々話は聞けるだろう。

とにかく父さんや母さんの期待に応える為にも、そして自分の将来の為にも頑張ろうと思った。

初日1（前書き）

会話文の挿入の仕方が下手ですみません。

初日 1

入学式の後には各自教室に戻って、担任の挨拶やクラス皆の自己紹介があった。こういうところは普通の女子高みたいだな、と思う。ただ、クラスメイトの名前を覚えるのは大変そうだったけど。それにしても皆日本語が上手なのは凄い。

途中、余所のクラスから凄い声が響いてきて驚いたけど、担任の先生は全然動じていない。流石だ。なんでも毎年の事らしい。声の方角からして1組のようだったから、大方男子生徒の挨拶があったのかとも思っていたけど、1組のクラス担任があの子のブリュンヒルデなのだそう。納得。

女子の情報収集能力侮るべからず。1組は担任がブリュンヒルデなうえに、唯一の男子生徒とイギリスの代表候補生がいるのだそう。確定情報では無いけれど、あの篠ノ乃博士の関係者もいるらしい。なんていうか派手なクラスというのが私の第一印象だ。他は4組に日本の代表候補生がいるくらいらしい。4組とは合同演習があるので、彼女の実技が見れるのが楽しみだ。

それにしても流石はエリート養成校といわれるだけのことはあるのか、入学式のその日から早速座学が始まった。自分も結構得意だと思っていたけど、さすがにこの学校に来ると、自分なんかまだままだと思いきらされる。卒業するまで結構ハードなことになりそうだ。とはいえ、自分の意志で入学したんだから精進あるのみ。

へとへとになって寮に帰ると、早速仲良くなった子のところへ顔

を出してみた。勉強だつて大事なんだけど、女同士の付き合いも大事なのだ。下手な噂がたとうものなら暗黒の学生生活が待っている。話題の中心になるのは当然1組の子だ。貴重な情報源である彼女の前には、皆からの捧げものが山になっている。とはいえ、結局皆で分けて食べるんだけど。

彼女の話だと、かの有名な男子生徒の名は織斑一夏。結構なイケメンらしい。もっともこんなことはニユースでいやって言うほど知っていたので、皆の視線の圧力が先を促す。

そして彼は、かのブリュンヒルデの弟なのだそう。日本人の子は名字である程度予想がついていたのかそれ程の驚きは無い。留学生組はメモをとるほどの熱心さだ。知識の吸収に貪欲なんだろう。

最初は、彼の外見がキュートだのなんだのと盛り上がっていたんだけど。彼が参考書を古い電話帳と間違つて捨ててしまったという話になった時、ちょっと沈黙があった。なにしろ皆、この学校に入学するまでそれこそ血のにじむような努力をし、参考書だつてすりきれるほど読んで此処に来たのだ。信じられなかったんだろう。私だつて受験自体は人生の記念としてだったけど、それはあまりの競争倍率で受かるとは思えなかったからで、勉強は人並以上はしたのだ。合格が決まってからは送られてきた参考書を寝る間も惜しんで読みこんだ。

「彼、急に入学が決まつてバタバタしてたんでしょ。しょうがないんじゃない？」

「でもあんなに分厚いのに」

「誰にでも失敗はあるって」

「そんなもんかな」

流石に最初はひいちゃった皆も、彼にIS適正有りと判明した日から入学までの短さを思えば、結構同情的な流れになってきた。自

分も親元を離れるにあたっては結構ばたばたしていたし。彼には両親はいないそうだから全部自分で準備したんだろう。親に色々やつてもらった自分が文句をいえることではないだろう。

そして、話がクラス代表決定の事になった時。完全に場が凍った。話していた子の表情も目に見えて引きつっていた。気立てのよさそうな、おっとりした感じの子なんだけど、くつきりと青筋が浮いてる気がする。ギャップが激しすぎて怖い。でも、彼女の口からイギリス代表候補生の話が出た時。きつと他の皆の顔も同じような感じになっていたと思う。彼女と同じイギリス出身の子は可哀相な位蒼褪めて、今にも失神してしまいそうだ。さすがに皆すぐには信じ難かったのか、他にも同じように駄弁っていた子たちと話をしてみると、そのイギリス代表候補生セシリア・オルコットが吐いた暴言はあからさまに日本を侮辱していた。彼女は気付いていないのだろうか？彼女は織斑君に対してだけ言っただけなんだろうけど、その言葉は学校の半分近くの人間への暴言になるのだということ。ただの一生徒ならまだしも、代表候補生が言っただけだ。重みはまるつきり違う。それに、もともと彼女の評判は良くなかった。彼女は自室の半分以上を自分の家具で埋めていて、ルームメイトは隅っこで小さくなっている。協調性のかけらもない。どうやら名家のお嬢様らしいけど、ここではそんなものは関係ないのに。きつと集団生活の経験が無いんだろう。でも、これで彼女は女子の大半を敵に回したと言っても過言ではない。もしかしたら、自分で気付いて反省して謝罪するかもしれないけど、この失点を挽回するのは難しいだろう。

イギリスの代表候補生の選定基準を聞いてみたかったけど、これ以上話を続けると本当に不味い事態になりそうだったので、皆でイギリス出身の子をひとしきり慰めた後、解散となった。

それにしても、この怒りを誰にぶつけねばいいのだろう？

初日2（前書き）

長い文が書けないので、短いのを細々と投稿させてもらおうと思います。

読みにくくてすみません。

初日 2

どこに怒りのやり場を向ければいいのだろうと、悶々としながら自室へと向かう。

校内唯一の男子生徒の存在は良い話のタネになっているのか、結構仲良しグループで駄弁っている子が多い。入学初日から部屋に籠って勉強する気にもなれないんだろう。とはいえ、さすがにずっとおしゃべりしていると翌日の授業に響くので、皆部屋に戻り始めている。まだ部活も始まっていないし、一年生の殆どが寮にいたようだ。大抵の子の顔が引きつって見えるのは気のせいじゃないだろう。そして、その中に話題のセシリア嬢の姿は無い。彼女は寮に入った時から、大体寮に居る時は部屋で一人で寛いでいるという噂だから、今日も部屋にいるんだろう。もし、部屋から出ていれば自分の置かれている立場に気付けたかもしれないのに。だから、女同士の付き合いは大切なのだ。

部屋に向かう途中、なんだか物騒な音が響いてきた。どうやらかなりアグレッシブな喧嘩が起っているらしい。可哀相にルームメイト同士の相性が最悪だったのだろう。周りにも迷惑だろうから、もしかしたらまた部屋替えとかあるかもしれない。できれば私にはとばっちりが来ませんように。

別に立ち聞きする趣味なんてないので足早に通り過ぎようとした時。

私は人間の腕力の凄さを見た。

IS学園の寮は、ちょっとしたホテル並みに設備が整っている。

もし地元の友達が私の部屋を見たら讃嘆の声をあげるだろう。そして、勿論ドアだってしっかりとつくりだ。寮の立地からして不審者が入るなんて事は無い気がするけど、防犯もばっちりしている。これは、欧米出身の学生達の感性に合わせているのかもしれない。

その、しっかりとしたドアが、今、私の、目の前で。

ふっとんだ。

なんとも非現実的な光景だ。

中から飛び出してきたのは、今最もホットな話題の男子生徒と、竹刀を振りまわすポニーテールの女子。これが往来だったら迷わず通報している。だけど、このとき私は

(ドアって竹刀でぶっこわせるんだあ)

現実逃避に走っていた。うん、誰だってこうなると思うよ？
むしろ腰を抜かさなかっただけ凄いと思う。

正氣に戻ったのは、親切な誰かが頬に絆創膏を貼ってくれた時だ。どうやら破片で切れたらしい。これだけの傷で済んで良かったと言
うべきか？

その場は騒ぎを聞きつけてやってきた寮長の織斑先生の一喝で静かになって、皆脱兎のごとく自室に戻ったけど。

私、あのポニテの子に謝ってもらってないんだけど。

まあ、彼女も興奮していたみたいだし、すぐに強制的にお開きになったし、しょうがないだろう。それにしても、なんか密度が濃すぎる一日だったと思う。

父さん、母さん、勉強をさぼってごめんなさい。だけど、今の状態じゃとても勉強に身が入りません。

明日の朝、早起きして予習をすることにして早々に就寝することにした。全部見ていたルームメイトが優しくしてくれて心に染みた。今度一緒にお風呂に行った時、フルーツ牛乳を御馳走しようと思う。

翌朝、あのポニテの子が1組の篠ノ乃さんだと知った。

自分を3組にしてくれた先生に最大の感謝を。

二日目？

昨夜は寝る前にとんでもない現場を目撃したけど、私の神経は余程ずぶとかったのか思いの外爽快な目覚めだった。

そして目が覚めて冷静になってみると自己嫌悪に襲われる。

昨夜はドアが吹っ飛んできた衝撃で思考がフリーズしちゃってたけど、ポニテの子が追いかけてたのは学校唯一の男子だったよね？ということはそれまでは二人で部屋にいたわけで。もしかして彼女はとんでもない危機的状況にあったんだろうか？だったら本当に申し訳ない事をした。一番謝罪されるべきは彼女だろう。

ちなみにルームメイトの話だと、なんとあの二人は同室なんだそううだ。

嘘でしょ？何考えてんの、この学校。

彼のお姉さんはこの寮の寮長として個室を持っているんだし、其処で寝起きするべきだと思うんだけど。公私の別云々とかいうなら、この寮は充分部屋が広いんだから、他を3人部屋にして個室を作つてあげてもいいだろうに。いきなり男の子と同室にされちゃった彼女にしみじみと同情する。

それにしてもドアをぶっ壊すほど怒るなんて、何があつたんだろう？

今度彼女をみかけてもそつとしておいてあげよう。

早めに起きて予習をしていたら、同じように早起きして朝練をしてきたルームメイトが戻ってきたので、二人で食堂へ向かう。私と同室になった子は、残念ながらクラスは2組で違うんだけど、明るくて活発で喋っていて楽しい子だ。本当にラッキーだ。実は父さ

んや母さんも彼女に挨拶して帰っていったんだけど、二人も気に入っていたみたい。

この学校の食堂は、それはもう多国籍の留学生を迎えるのでメニューの種類が半端ない。地元の食堂より、よっぽど凄い。いつか全メニュー制覇とかしてみたいと思うけど、どれ位かかるだろう？

段々混雑してきたので、流石にゆっくり選んでもいられないので普通にモーニングセットを頼む。実技も重んじる学校ゆえか結構なボリュームだ。起きぬけだったらきついかも。

食堂の一角に昨夜の彼女を見つける。隣に例の男の子がいるところを見ると、それ程心配する様な事は無かったみたいだ。女子校出身の子は男の子に免疫がないから、きつと過剰反応しちゃったんだろう。それにしても過激だけど。あの修理費は誰が出すのかな？

そんな彼女に興味津津で近付いて行く女子が数人いる。やはり彼女の名字が気になるらしい。私も篠ノ乃なんて名字はあの篠ノ乃博士位しか知らないから、親戚かなとは思ってるんだけど。

それにしても凄い反応。あれじゃ「関係者です」って大声で宣言したのと同じだよな。

彼女はもつと牛乳を飲むべきだと何時かアドバイスしてあげよう。なんだか、彼の方を疑っちゃったことが申し訳なくなっちゃった。本当に何時割れるか分からなくてドキドキする風船みたいな子だよな。

うん、本当に私、3組で良かった。

二日目？（前書き）

文才が欲しい。

二日目？

今日から早速本格的に授業が始まる。

ちなみにうちのクラスの代表は、無難にアメリカ出身の子が立候補してそのまま決まった。このクラスは代表候補生はいないし、技量は未知数でも性格のしっかりした子がイニシアチブを握るのは良い事だと思う。1組はまだ決まって無いけど、代表候補生と殆ど素人の男子生徒の決闘ならもう決まったも同然だろう。まあ、1組の子たちには「御愁傷さま」とだけ言っておく。いくら強くても、あんな国粹主義者の子が代表じゃ苦労しそう。

ちなみに彼の特訓はあの篠ノ乃さんがするんだそうだ。あの後知ったけど、彼女は博士の妹なんだそうだ。もしかしたら一週間で劇的に見違えるほどの特訓をしてくるかもしれない。番狂わせが起きると面白いだろうな。

1組の子の話だと、1組の担任はやたら怖くて、副担任はすぐにメソメソする先生らしい。やはり憧れの対象は遠くから見に限ると思う。私はこのクラスにまで響いてくる様な出席簿アタックは絶対に受けたくない。話を聞くだけで怖気が走るほどの軍隊式だ。彼女の骨はきちんと拾ってあげよう。

それにしても世界最強だった先生なんだから、上級生とか、もつとISに慣れている生徒の教官をしてくれたら良いのに。宝の持ち腐れだよな。私達、座学でISの知識は詰め込んできたけど、実技は初心者マークなんだけだな。本当にこの学校って何考えてるのかわからない。

無事に本格的な一日目が終わって寮に帰る。

好奇心の強い子は早速話題の二人の特訓風景を見て来たらしい。なんでも、二人でひたすら剣道をしていたそうだ。皆、彼女の考えがわからなくて不思議顔だ。

情報通の話だと、流石世界初の男性IS適正者というべきか、クラス代表決定戦の日までに彼の専用機が届くんだそうだ。羨ましいとも思うけど、データ取りが目的なんだろう。ちなみにその専用機がどういう機体なのか知っている子はいなかった。もしかして篠ノ乃さん達は特別に主武装とかの情報を貰ったんだろうか？

ちなみにイギリスの代表候補生の専用機は遠距離攻撃を主体とするタイプらしい。もし彼の専用機が近接戦闘型なら益々ご愁傷さまだ。いくら性格が悪くても流石に実技の腕が悪いという事は無いだろうし、きつと間合いに入らせて貰えないだろう。しゃくな話ではあるけれど、代表候補生という存在はそれだけ強い存在なんだからそれにしても確かに本人の剣の腕前が上がれば、IS搭乗時にもそれは反映されるけど。彼の今までのIS実働時間数はどれ位なんだろう？生身の時と違って、ISに乗ると間合いだって変わるんだし、ISに慣れる方が先じゃないかな、と思う私はやっぱり素人なんだろうな。

私も素振りでも始めようかな？

クラス代表決定戦（前書き）

文調が安定しません。なんかオリ主の日記みたいになってきました。オリ主の設定は一応つくってあるんですが、公開する必要はあるんでしょうか？

クラス代表決定戦

今日は1組のクラス代表決定戦の日だ。

専用機を生で見た事が無い私としては、是非とも見たいところなんだけど、学年行事じゃないから見れないんだよね。残念。皆もう思っているのか教室の雰囲気は落ち着かない。せめて自習になればいいのに。

結局は、やっぱりというべきかイギリス代表候補生の勝利。まあ、いくら相手も専用機持ちでも素人同然なんだから、負けてたらとってもやばい事態になってたと思う。国の面子も丸潰れだしね。

でも1組の子たちの話だと接戦だったそうだから、さすがはブリュンヒルデの弟と言うべきか、代表候補生が見かけ倒しだったと言うべきか判断に悩むところだ。

ちなみに織斑君の主武装は『雪片式型』という名前の刀剣だった。さすがに本人には主武装が前もって教えられてたんだ。前知識無しでいきなり試合なんてありえないしね。

そしてオルコットさんと織斑君は結局和解はしたみたい。まあ、直接侮辱されたのは彼なんだから、彼が許すのなら私達は文句が言えないけど。でも、私としてはせめて1組の皆の前では謝ってほしかったな。

そして、あれだけ大騒ぎになった挙句、1組のクラス代表は織斑君に決まった。なんでもオルコットさんがその座を譲ったんだって。

だったら最初から立候補しなきゃいいのに。まあ、試合が接戦だったからこそなんだろうけど。

そういうわけで、今夜は織斑君のクラス代表決定のお祝いパーティー。勿論私達だって紛れ込む。参加者は1組限定なんて言われてないし、彼を間近で見れるチャンスなんてなかなか無いしね。

それにしても、オルコットさん、織斑君を好きになったんだね。わかりやす過ぎ。もっとも肝心の相手はこれっぽっちも気付いてないけど。あそこまで鈍感だと、ある意味尊敬に値するかも。こんな女ばっかりの学校で自意識過剰な男子だったりしたらウザイだけだし。

決して関わりたくはないけれど、これからどうなるか見ている分には楽しそうなクラスではある。

それにしてもオルコットさん。そんなんじや将来簡単に悪い男に引っ掛かりそう。よっぽどの箱入り育ちだったんだね。健闘だけは祈ってあげる。祈るだけで応援はしないけどね。

転入生（前書き）

別に鈴が2組を疎かにしていたという表現は無かったと思います
が、あまりにも織斑ハーレムとの行動が多かった気がしたので。

転入生

隣の2組に転入生が来た。中国の代表候補生とのこと。これで、代表候補生がいないのは我が3組だけになってしまった。まあ、運の問題だからしょうがない。彼女が転入するなら、2組か3組のどちらかしかなかったわけだし。

ルームメイトの話だとチャキチャキとした明るい子らしい。性格は勝気なのか、2組のクラス代表は彼女に変わってしまった。別にクラス代表は必ずしもクラス最強でなくてもいいだろうに。そうじゃなかったら、最初から学校側がクラス代表を決めていたはずだ。まあ、これは2組の問題だから私が口出しする権利は無いけどね。

それにしても気になるのは、彼女が織斑君の幼馴染だったこと。篠ノ乃さんも織斑君の幼馴染だったそうだし、早くも三角関係から四角関係へ発展の予感。校内唯一の男子を巡っての女の戦いなんて、いかにも女子高の子は男に飢えてますって感じで嫌だけど、昔からの知り合いじゃしょうがないか。

織斑君ってそんなに良い男かな？顔は良い方だろうけど。今まで見る限りの鈍感っぷりだと、いざ付き合うことになってもつまらなさそう。他の友達も、学校ではキヤーキヤー言って盛り上げてるけど、結構皆学外で彼氏を作っていたりする。もともと本業を疎かにするような子は入学できたりしてないから、仲良しの遊び仲間レベル。本当にハードだし、この学校。承知の上だから仕方ないけどね。

けどね、鳳さん。いくら織斑君が気になるからって1組の人達ばかりとつるものは良くないと思うよ。クラス代表を交代した子が可

哀相じゃない。せめて自分のクラスぐらいまとめてあげないと。

クラス委員とクラス代表選手って分けた方が良いと思うな。強さとリーダーシップって別物でしょ？

いくら歴史の浅い学校とはいっても、もうちょっと改善の余地ありだよな。

それにしても織斑君。あそこまで露骨に好意を示されて気付かないなんて、本当に天然記念物レベルだね。

最初に男性のIS適正者が発見されたってニュースが流れた時、実は女性なんじゃないかって話もあったけど、今なら私もその意見に納得しちやいそう。実は男装の女性なんてベタなオチはないだろうけどね。

クラス対抗戦（前書き）

最初は原作キャラを退場させるつもりだったので、原作ブレイク
って書いておいたのですが、思っていたよりマイルドな話になって
きたので看板に偽りありですね。このまま進むようでしたら近いう
ちに修正します。

それにしても主人公の性格が悪い気がしないでもないのですが、
どうでしょう？

クラス対抗戦

とうとうクラス対抗戦の日がやってきた。

我がクラスの代表は、国家の代表候補生でもないし、専用機持ちでもないけど皆で精一杯応援するつもりだ。元気を装ってはいるけど、緊張しているのは丸わかりなので皆で一生懸命励ましてる。本当に良いクラスだ。私だったらあんな人達を相手に試合なんて怖くて出来ない。そんな試合に挑むクラス代表は本当に凄い子だと尊敬している。

実技の練習は、練習機の数の問題や、練習場の広さの問題もあつて中々進まない現状だけど、皆でこれまで頑張ってきたんだ。気持だけは負けないでいこうと思う。

最初は1組の織斑君と2組の鳳さんの試合だ。二人とも専用機持ちなので、皆二人の専用機に目が釘付けた。こればかりは仕方無い。4組とは合同演習が一緒だったんだけど、4組の代表候補生はまだ専用機を持っていなかったので、専用機を見る機会がなかったのだ。屋外で演習しているところを見掛けはするけど、こんなに近くで見た事は無い。

それにしても織斑君の専用機は『白式』という名前だけあって、本当に真っ白だ。綺麗だと思う。鳳さんの専用機はカッコイイって感じ。武装も如何にも中国っぽい。

私はロケット打ち上げ基地の近くに住んでいたから、宇宙開発関係の仕事に憧れて育った。だから、はつきりいつてISが本来の宇宙開発用に使われないことがとても残念だったし、武器や競技用としてのISには実はあまり好感をもっていないんだけど、いつか本

来の形で使えるようになったら、絶対に乗ってみせる。それにしても本当に勿体無いな。ISが本来の形を外れなかったら、今頃人類の活動範囲は飛躍的に広がっていただろうに。大人って夢が無い。

試合は決着が着く前に、謎のISの乱入で有耶無耶になった。もっともその時の私は、他の皆と一緒にパニックになって怯えてただけ。その変なISは専用機持ちの人達がやつつけてくれた。やっぱり専用機を持つ人達って特別なんだ。

オルコットさんの評価も皆の中で上向き修正されてきた。見ているだけで面白い人だしね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3493ba/>

IS～ある平凡な女生徒の話～

2012年1月10日11時48分発行